

震災復興スポーツイベントが運営者に与える影響

The Influence the sports events related to the earthquake disaster gives to the manager

1K10C134-3 菊地 啓太

主査 間野義之 先生

副査 木村和彦 先生

【緒言】

消防庁災害対策本部(2013)によると 2011 年 3 月 11 日に 14 時 46 分に宮城県北部を中心とした最大震度 7、マグニチュード 9.0 を観測した東北地方太平洋沖地震が発生した。日本気象協会(2011)によると、この地震では、最大波高 9.3m、最大遡上高 40.1m を観測した津波が発生し、東北地方沿岸部に対して多くの被害をもたらした。この東北地方太平洋沖地震は我が国の観測史上最大規模の地震であり、世界的にも 1900 年以降 4 番目の規模の地震であったと復興庁(2013)の調査で明らかになっている。また、津波の影響により東京電力福島第一原子力発電所で起こった事故の影響で震災から 3 年が経過しようとしている今でも、被災地域に甚大な影響を及ぼし続けている。

小石原(2012)は災害発生から 1 年 5 ヶ月が経過した時点でもアスリートのスポーツ復興支援活動への参加が運動・スポーツへの意欲の向上へ一定の効果があることを明らかにしている。

長塚(2011)は、被災地におけるトップアスリートの継続的スポーツ教室の効果を明らかにしている。参加者には自由記述を含むアンケート調査を行い、指導する側のトップアスリートにはインタビュー調査を行った。参加者は回数を重ねるたびに成長していることが伺えた。その理由としては、トップアスリートに直接指導してもらえる喜びが持続し、具体的な疑問をアスリートに質問や相談をして、具体的な指導を得られたことで満足感、自分自身の成長の実感、日頃の練習意欲の向上へと繋がっている。

そこで本研究では、スポーツ復興支援活動を行っている運営側に着目しどのような効果をもたらすことができているのかを調査することを目的とする。

【方法】

一般社団法人日本アスリート会議が主催するウォームアップ・ジャパン・プロジェクトの武道フェスティバル石巻での運営者 3 名に対して震災復興スポーツイベントが運営者に与える影響についてのインタビュー調査を行った。

【結果】

三者のインタビューから震災復興スポーツイベントは運営者にとって以下の 4 つの共通項が抽出された。

- 1、 市民や被災地域に対する責任感の芽生え
- 2、 イベント参加者の満足に対するやりがい
- 3、 所属する組織のあるべき姿、仕事の理解
- 4、 組織の活性化

【考察】

仮設住宅、避難所を巡りエコノミー症候群予防体操を実施したことを皮切りに、相撲巡業を招致、東京都と日本アスリート会議の支援のもと 3 年連続で石巻武道フェスティバルを開催、その他多くの被災地復興支援イベントを行った。被災地の市民が苦しんでいる時に、市の体育の中核機関として何かしなければいけないという責任感が非常に強くなったことがインタビューから分かる。

また、イベント参加者が楽しんでくれることによってやりがいを感じることができたと述べている。これは、より多くの市民を巻き込んでイベントを行えたときに強く感じるようだ。大相撲の巡業を 50 数年ぶりに石巻へ招致に成功したことにやりがいを感じたことの挙げていることから伺えるように市民のイベントへの参加度、満足度に比例して運営者のやりがいや達成感も増えることが多いのではないかとと言える。

石巻体育協会の本当にあるべき姿を震災復興スポーツイベントで理解したことが言える。子供たちがトップアスリートに指導を受け、楽しんでスポーツをする機会を提供していることが自分たちの仕事だと改めて実感すると述べている。石巻体育協会や自分自身がスポーツ事業の中心を担っているという責任を感じて働いていて、石巻体育協会として行っている仕事は、ただの仕事ではなく使命だと述べる。ここからも両者からのインタビューから石巻体育協会としてのアイデンティティを震災復興スポーツイベントから学び、理解していると言えるだろう。